

事業計画書

1. 申請する法人について							
法人名	特定非営利活動法人 Special Discovery Supporters						
法人の設立登記日	2022	年	6	月	20	日	
法人設立前の団体の設立日	2021	年	9	月	2	日 ※NPO法人設立前に任意団体等で活動実績がある場合は記載する	
ホームページ・SNS	ホームページ	https://sites.google.com/special-discovery-supporters.com/specialdiscovery supporters/%E3%83%9B%E3%83%BC%E3%83%A0?authuser=0			Facebook		
	X (旧Twitter)				YouTube		
	Instagram	https://www.instagram.com/free_school_hiro/			その他		
活動歴・これまでの活動実績 <各活動90字以内>	活動①	2021年9月に桶川市ではじめてのフリースクールHIROを開設し、桶川近隣地域の不登校支援の中核となすべく活動を開始した。					
	活動②	2022年6月にNPO法人 Special Discovery Supportersを設立し、フリースクールHIROを事業活動の一つとして位置づけ、充実した活動ができる土台を整えた。					
	活動③	2023年には、埼玉県NPO活動推進助成事業の採択を受け、養老孟司氏の講演会を桶川市で開催し、150名を超える参加者とともに学びについて検討した。					
	活動④	2024年には、社会福祉振興助成事業の採択を受け、事業拡充、全国各地の居場所支援を行っている方々とのシンポジウムを開催した。					
	活動⑤	2025年には、再度、埼玉県NPO活動推進助成事業の採択を受け、地域の社会福祉協議会共催で居場所事業を開始した。					
助成金等の交付実績 ※ 2023年4月～2026年3月に交付された助成金等を記載 ※ 5件以上ある場合は、直近のものから5件を記載		助成金等名称		交付者		交付年月	交付額
	助成金等①	令和5年度 NPO活動促進助成事業		埼玉県NPO活動促進助成事業		2024	年 3 月 500,000 円
	助成金等②	令和6年度 社会福祉振興助成事業(通常助成事業)		社会福祉振興助成事業(通常助成事業)		2024	年 5 月 3,695,000 円
	助成金等③	令和7年度 NPO活動促進助成事業		埼玉県NPO活動促進助成事業		2026	年 3 月 500,000 円
	助成金等④					年	月 円
	助成金等⑤					年	月 円
申請する事業に従事する社員		氏名		役割			
	社員①	中里哲也		統括責任者、連絡担当者			
	社員②	菊地希美		現場責任者、事業責任者(事業1)、事業推進担当者(事業1.2)			
	社員③	横田典子		現場副責任者、事業責任者(事業2)、事業推進担当者(事業1.2)			
	社員④	森村舞花		事業推進活動担当者(1.2)			
	社員⑤	田中秀夫		経理担当者			
	その他従事社員数			人			
	従事社員総数	5		人			

2. 申請する事業について

事業名	ともに学び、希望をつなぐ地域づくり事業 ― フリースクール6年間の軌跡を形に ―	事業区分	スタートアップ支援事業	事業分野	つながり・支え合い
事業対象	事業1:桶川市近隣地域、事業2:埼玉県全域	対象地域	事業1:桶川市近隣地域、事業2:埼玉県全域	事業実施期間	2026/7/1 ~ 2027/2/28

解決したい地域課題及びその現状<300字程度>

桶川市およびその周辺地域では、不登校や発達特性など様々な理由から公立学校への通学が困難な子どもが増加している。文部科学省の調査によると、不登校児童生徒数は全国的に過去最多水準で推移しており、当該地域においても例外ではない。こうした子どもたちは、学びの場や同世代とのつながりを失いやすく、将来的な社会参加に影響を及ぼす可能性がある。当法人は「子どもが安心して学べる地域社会をつくる」という目的のもと、設立以来フリースクールを通じて学びの場・機会の提供に取り組んできた。設立5年目を迎えた現在、これまでの支援活動を基盤として、子どもたち自身が主体的に活動に参加・企画できる環境を整えることが次なる課題となっている。子どもの主体性を育む仕組みづくりが、地域全体の子育て・教育環境の向上にもつながると考える。

上記の地域課題の解決に向けた事業の概要<300字程度>

本事業では、地域の子どもたちが安心して学び、成長できる環境を整えるため、二つの取組を実施する。一つ目は「みんなのHIRO場事業」として、フリースクールHIROを拠点に、不登校等の子どもや保護者、地域住民が共に参加できる居場所づくりを行う。子どもが安心して過ごせる場を提供しながら、地域とのつながりを広げることを目指す。二つ目は「希望へのプロセス」として、法人設立5年目・フリースクール支援6年目の節目に、様々な理由で学校に行くことが難しかった子どもたちへのインタビュー調査を実施する。子どもが回復・成長していくプロセスやその要因を丁寧に記録・分析し、noteなどのインターネット媒体を通じて広く発信することで、同様の課題を抱える家庭や支援者への情報提供と社会的啓発を目指す。

事業効果（※事業の効果はどのように県内広域に及ぶか、単一市町村内で行う事業の場合は、事業の効果が他の地域にどのように裨益するのか具体的に記載）<300字程度>

本事業の取組は、桶川市を拠点としながらも、その効果は県内広域に波及することが期待される。「みんなのHIRO場事業」で構築する居場所づくりのモデルは、地域住民・保護者・子どもが共に関わる運営手法として、他市町村のNPOや支援団体が参考にできる実践事例となり得る。事業の記録やノウハウを積極的に発信することで、同様の課題を抱える地域への横展開を図る。「希望へのプロセス」では、当事者の声をインタビュー調査によって丁寧に記録・発信することで、不登校支援に悩む保護者・教育関係者・行政担当者など広範な読者へ届く情報発信が可能となる。noteなどのインターネット媒体を活用することで、県内にとどまらず全国規模での波及効果が期待でき、埼玉県における先進的な取組として広く認知されることを目指す。

事業の発展性（これまでの取組を踏まえ、事業の自立的な運営や効果的な実施に向けてどのような工夫・改善を行うか具体的に記載）<300字程度>

本事業の自律的・継続的な運営に向け、以下の工夫を図る。「みんなのHIRO場事業」では、参加者である保護者や地域住民がボランティアスタッフとして運営に加わる仕組みを整え、法人単独に依存しない持続可能な居場所づくりを目指す。地域に根ざした運営体制を築くことで、事業の安定性と継続性を高めていく。「希望へのプロセス」では、インタビュー調査で得られた知見を継続的に蓄積・発信することで、当法人の専門性と社会的信頼を高め、他団体や研究機関・行政との連携につなげていく。また、発信した記事が広く読まれることで協賛・協力企業の獲得にもつなげ、次年度以降の自律的な調査・発信活動の基盤を整える。両事業を通じて蓄積されたノウハウをマニュアル化し、法人全体の組織力強化にもつなげる。

事業の先駆性・モデル性（※事業の手法など他団体の取組のモデルとなり得るポイントを記載）<300字程度>

本事業の先駆性は、不登校等の子どもへの「支援」にとどまらず、当事者の声を丁寧に記録・発信することで社会全体の理解を深める点にある。特に、支援者全員が社会福祉士または臨床心理士の資格保持者であり、法人代表が大学研究者でもあるという専門性の高い体制は、他団体にはない大きな強みであり、本事業の信頼性と質を担保するものである。「みんなのHIRO場事業」は、子ども・保護者・地域住民が共に運営に参加する居場所モデルとして、支援する側・される側という従来の枠組みを超えた相互に支え合うコミュニティづくりの先進事例となる。「希望へのプロセス」は、フリースクール支援6年間の実践と専門的知見を基盤に、倫理審査を経たインタビュー調査によって回復要因を体系的に明らかにする取組であり、県内でも類例の少ない先駆的な試みといえる。得られた知見をnote等のインターネット媒体で広く発信することで、全国の保護者・支援者・行政担当者が活用できる再現性の高いモデルとして定着させることを目指す。

―

—

3. 申請事業の具体的な取組内容

取組 ①	取組名	新規/拡充/継続		実施時期	実施場所(市町村名)	実施場所(施設名等の名称)	
	みんなのHIRO場事業		拡充	7月 ~ 2月	桶川市	フリースクールHIRO	
	取組の目的<200字程度>						
	<p>様々な理由から公立学校への通学が困難な子どもが、地域の中で安心して過ごせる居場所を提供することを目的とする。子ども・保護者・地域住民が共に関わる場を通じて、孤立しがちな子どもや家庭が地域とつながる機会を創出する。また、子ども自身が居場所の運営に参加することで、主体性や自己肯定感を育むとともに、地域全体で子どもを支える環境づくりを目指す。</p>						
	取組の内容<100字程度>						
	<p>フリースクールHIROを拠点に、月1回以上の居場所イベントを開催する。子どもと保護者、地域住民が共に参加できるプログラムを実施し、ボランティアスタッフとともに運営する。</p>						
	対象者		事業実施回数		参加者数合計		事業収益見込額
	桶川市在住の方々		月 1回 × 8か月 = 8回	各回 15名 × 8回 = 120名		1名あたり 0円 × 120名 = 0円	
従業社員数	ボランティア数	連携団体数	連携する団体の名称(役割)				
4名	5名	3団体	桶川市社会福祉協議会(運営協力)、近隣地域自治会、桶川市観光協会(予定)				

取組 ②	取組名	新規/拡充/継続		実施時期	実施場所(市町村名)	実施場所(施設名等の名称)	
	希望へのプロセス —不登校経験者の回復要因インタビュー調査・発信事業—		新規	7月 ~ 2月	桶川市	フリースクールHIRO	
	取組の目的<200字程度>						
	<p>法人設立5年目・フリースクール支援6年目の節目に、様々な理由で学校に行くことが難しかった子どもたちが元気になっていくプロセスやその要因を明らかにすることを目的とする。支援者全員が社会福祉士または臨床心理士の資格保持者であり、大学研究者でもある法人代表のもと、倫理審査を経た適切な手続きで調査を実施し、不登校支援に関する社会的理解の促進に貢献する。</p>						
	取組の内容<100字程度>						
	<p>フリースクールHIROの利用者・卒業生を対象に、合計20名程度へのインタビュー調査を実施し、回復・成長のプロセスを記録・分析する。得られた知見を長編記事としてnoteにて発信する(2月末公開予定・1本)。</p>						
	対象者		事業実施回数		参加者数合計		事業収益見込額
	不登校について悩む保護者		月 1回 × 1か月 = 1回	各回 100名 × 1回 = 100名		1名あたり 200円 × 100名 = 20,000円	
従業社員数	ボランティア数	連携団体数	連携する団体の名称(役割)				
4名	0名	0団体					

取組 ③	取組名		新規/拡充/継続	実施時期	実施場所(市町村名)	実施場所(施設名等の名称)		
				~				
	取組の目的<200字程度>							
	取組の内容<100字程度>							
	対象者		事業実施回数		参加者数合計		事業収益見込額	
			月	回 ×	か月 = 0回	各回	名 × 0回 = 0名	1名あたり
従業員数	ボランティア数	連携団体数	連携する団体の名称(役割)					
名	名	団体						

取組 ④	取組名		新規/拡充/継続	実施時期	実施場所(市町村名)	実施場所(施設名等の名称)		
				~				
	取組の目的<200字程度>							
	取組の内容<100字程度>							
	対象者		事業実施回数		参加者数合計		事業収益見込額	
			月	回 ×	か月 = 0回	各回	名 × 0回 = 0名	1名あたり
従業員数	ボランティア数	連携団体数	連携する団体の名称(役割)					
名	名	団体						

取組 ⑤	取組名		新規/拡充/継続	実施時期	実施場所(市町村名)	実施場所(施設名等の名称)									
	取組の目的<200字程度>														
	取組の内容<100字程度>														
	対象者		事業実施回数		参加者数合計		事業収益見込額								
			月	回 ×	か月	=	0 回	各回	名 ×	0 回 =	0 名	1名あたり	円 ×	0 名 =	円
	従業員数	ボランティア数	連携団体数	連携する団体の名称(役割)											
	名	名	団体												

4.申請事業の目標

事業全体の目標				
No.	目標	目標値	測定方法	
1	事業を通じて子どもの居場所・学びの機会を提供する	参加者延べ150名以上	参加者名簿・出席記録による集計	
2	不登校経験者の回復プロセスに関する調査・発信を行う	note記事1本以上公開 閲覧数500PV以上	note管理画面のアクセス数記録	
3	法人の専門的知見を地域・社会へ発信し認知を高める	SNS・メディア等での記事シェア 引用5件以上	SNSのシェア数・引用数の記録	
4				
5				
各取組の成果指標				
No.	取組名	目標	目標値	測定方法
取組①	みんなのHIRO場事業	子ども・保護者・地域住民の参加を促進し、参加者の安心感を高める	延べ参加者150名以上 参加者アンケート満足80%以上	参加者名簿による集計 アンケート集計
取組②	希望へのプロセス —不登校経験者の回復要因インタビュー調査・発信事業—	記事が広く読まれ社会的関心を高める	公開後1か月以内に閲覧数 500PV以上	note管理画面のアクセス数記録
取組③	0			
取組④	0			
取組⑤	0			

5. 申請事業の実施に向けた課題とその解決のための取組・工夫等

課題①	具体的な課題	居場所イベントを安定的に開催するためには、会場費・消耗品費・ボランティアへの交通費など継続的な運営資金が必要となる。助成金終了後も事業を継続していくための財源確保が課題である。
	課題解決のための取組・工夫	本助成金を活用しながら事業基盤を整えるとともに、地域の企業・団体からの協賛獲得に向けた働きかけを並行して進める。また、ボランティアスタッフの積極的な活用により運営コストを抑えつつ、次年度以降の自律的な運営体制の構築を目指す。
	目標	助成期間内に少なくとも1件以上の協賛・協力企業を獲得し、次年度以降の運営見通しを立てる。
課題②	具体的な課題	インタビュー調査を適切に実施するためには倫理審査の申請・承認が必要であり、審査機関によっては承認までに数か月を要する場合がある。審査期間が想定より長引いた場合、調査・執筆・発信のスケジュール全体に影響が生じる可能性がある。
	課題解決のための取組・工夫	大学研究者でもある法人代表が倫理審査の申請手続きに精通していることを活かし、事業開始と同時に速やかに申請を行う。審査承認を待つ期間中は調査設計・インタビューガイドの作成・対象者への事前説明資料の準備など、承認後に速やかに調査を開始できる体制を整えておく。
	目標	事業開始後速やかに倫理審査を申請し、承認後のインタビュー調査を予定通り完了する。
課題③	具体的な課題	両事業を並行して実施するにあたり、専門資格を持つスタッフへの業務集中が懸念される。
	課題解決のための取組・工夫	取組①ではボランティアスタッフを積極的に活用して法人スタッフの負担を分散する。取組②では法人代表が調査設計・分析を主導し、各スタッフの役割分担を明確にしたスケジュール管理を徹底することで、両事業の円滑な並行実施を目指す。
	目標	スタッフ一人ひとりの役割を明確化し、無理のない運営体制を構築する。

6. 3年後(2029年度)、法人がどのように成長しているか<300字以内>

2029年度には、地域・行政・教育機関との連携を深めた、埼玉県における子ども支援の中核的な存在として成長していることを目指す。
 具体的には、桶川市をはじめとする近隣市町村の行政担当者やスクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーとの定期的な情報共有の場が確立され、不登校支援における地域のネットワークの一翼を担う法人となっていること。また、本事業で実施したインタビュー調査・発信活動の実績をもとに、行政や教育機関から調査・研究・研修への協力依頼を受けられる専門的信頼を獲得していること。さらに、地域企業・団体との協賛関係を拡充し、助成金に過度に依存しない安定した運営基盤を確立していること。
 支援者全員が専門資格を持ち、大学研究者が代表を務める法人の強みを活かし、地域と共に子どもの未来を支える存在として根付いていることを目指す。

収支予算書

法人名
事業名特定非営利活動法人 Special Discovery Supporters
ともに学び、希望をつなぐ地域づくり事業 — フリースクール6年間の軌跡を形に —

1. 収入の部				810,000							
項目		予算額(円)		積算内訳							
a.助成金交付申請額		300,000		※千円未満切り捨て/採択区分により補助率と交付額が変わる可能性があります							
b.自己資金		490,000		※自動計算							
c.事業実施による収入等		20,000		金額1	単位	×	金額2	単位	×	金額3	単位
(収入の内容)	note 販売収入	(該当する事業)	事業2	20,000	200 円	×	100 人	×			回
(収入の内容)		(該当する事業)		0		×		×			
(収入の内容)		(該当する事業)		0		×		×			
(収入の内容)		(該当する事業)		0		×		×			
(収入の内容)		(該当する事業)		0		×		×			
d.その他		0		金額1	単位	×	金額2	単位	×	金額3	単位
(収入の内容)		(該当する事業)		0		×		×			
(収入の内容)		(該当する事業)		0		×		×			
2. 支出の部				810,000							
項目		予算額(円)		積算内訳							
a.会場費		0		金額1	単位	×	金額2	単位	×	金額3	単位
(支出の内容)		(該当する事業)		0		×		×			
(支出の内容)		(該当する事業)		0		×		×			
(支出の内容)		(該当する事業)		0		×		×			
(支出の内容)		(該当する事業)		0		×		×			
(支出の内容)		(該当する事業)		0		×		×			
b.通信運搬費		0		金額1	単位	×	金額2	単位	×	金額3	単位
(支出の内容)		(該当する事業)		0		×		×			
(支出の内容)		(該当する事業)		0		×		×			
(支出の内容)		(該当する事業)		0		×		×			
(支出の内容)		(該当する事業)		0		×		×			
(支出の内容)		(該当する事業)		0		×		×			
c.旅費交通費		170,000		金額1	単位	×	金額2	単位	×	金額3	単位
(支出の内容)	スタッフ交通費	(該当する事業)	事業1	64,000	2,000 円	×	4 人	×			8 日
(支出の内容)	スタッフ交通費	(該当する事業)	事業2	96,000	2,000 円	×	4 人	×			12 日
(支出の内容)	インタビュー対象者交通費	(該当する事業)	事業2	10,000	500 円	×	20 人	×			
(支出の内容)		(該当する事業)		0		×		×			
(支出の内容)		(該当する事業)		0		×		×			

d.消耗品費				80,000	金額1	単位	×	金額2	単位	×	金額3	単位
(支出の内容)	チラシ用 印刷用紙	(該当する事業)	事業1	10,000	10,000	円	×			×		
(支出の内容)	チラシ用 インク代	(該当する事業)	事業1	20,000	20,000	円	×			×		
(支出の内容)	インタビュー調査結果解析用AI(有料版:CLAUDEを予定)	(該当する事業)	事業2	50,000	50,000	円	×			×		
(支出の内容)		(該当する事業)		0			×			×		
(支出の内容)		(該当する事業)		0			×			×		
e.備品費				0	金額1	単位	×	金額2	単位	×	金額3	単位
(支出の内容)		(該当する事業)		0			×			×		
(支出の内容)		(該当する事業)		0			×			×		
(支出の内容)		(該当する事業)		0			×			×		
(支出の内容)		(該当する事業)		0			×			×		
(支出の内容)		(該当する事業)		0			×			×		
f.委託費				0	金額1	単位	×	金額2	単位	×	金額3	単位
(支出の内容)		(該当する事業)		0			×			×		
(支出の内容)		(該当する事業)		0			×			×		
(支出の内容)		(該当する事業)		0			×			×		
(支出の内容)		(該当する事業)		0			×			×		
(支出の内容)		(該当する事業)		0			×			×		
g.謝金				60,000	金額1	単位	×	金額2	単位	×	金額3	単位
(支出の内容)	インタビュー対象者への謝金	(該当する事業)	事業2	60,000	3,000	円	×	20	人	×		
(支出の内容)		(該当する事業)		0			×			×		
(支出の内容)		(該当する事業)		0			×			×		
(支出の内容)		(該当する事業)		0			×			×		
(支出の内容)		(該当する事業)		0			×			×		
h.人件費				500,000	金額1	単位	×	金額2	単位	×	金額3	単位
(支出の内容)	スタッフ人件費	(該当する事業)	事業1	120,000	1,250	円	×	4	人	×	24	時間
(支出の内容)	スタッフ人件費	(該当する事業)	事業2	380,000	1,250	円	×	4	人	×	76	時間
(支出の内容)		(該当する事業)		0			×			×		
(支出の内容)		(該当する事業)		0			×			×		
(支出の内容)		(該当する事業)		0			×			×		
i.その他				0	金額1	単位	×	金額2	単位	×	金額3	単位
(支出の内容)		(該当する事業)		0			×			×		
(支出の内容)		(該当する事業)		0			×			×		
(支出の内容)		(該当する事業)		0			×			×		
(支出の内容)		(該当する事業)		0			×			×		